

祝崎

寅子

「虎は千里行て千里帰ふ」ということわざがあります。虎は一日に千里行って、またその千里を戻ってくるころがお来るといふことから一般的には「勢いの盛んなこと」のたとえとして用いられますが、別の解釈もあるようです。虎は何ききに千里の道をあわてて帰るのでしよつ。

実は虎は自分の子供が心配で戻るのではないかといふことです。恐ろしいものの代表のしよつに二言われている虎ですが、とても子供を大切に思ふしよつです。

何事も虎のしよつに威勢よくいきたいところですが、子供を大切に思ふ虎のしよつに、みんなが仲良く、健康にすこいらいものです。

火之神沖から望む
立神岩と朝日